

指定校番号	29054	学級活動		生徒会活動	○	学校行事		中学校用
-------	-------	------	--	-------	---	------	--	------

平成 29 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	三次市立八次中学校	校長	小丸 幸則	生徒指導主事	宮部 英巳
-----	-----------	----	-------	--------	-------

取組事例名 『生徒会活動と連携した積極的生徒指導』**取組のねらい** 『キーワード 自己肯定感の向上』

本校の生徒指導上の課題として、服装の乱れ、授業妨害、授業エスケープ、指導に従えない、暴言、携帯等の不要物の持ち込み、自転車通学違反、地域の施設や登下校でのマナーの悪さ、生徒間トラブルなどが挙げられる。問題行動を繰り返すのは一部の生徒であり、生徒同士の関わり合いが十分行えていない状況が、全体の落ち着いたのなさにつながっていると考えている。現状の改善のためには、生徒自身の自己肯定感を向上させ、自分が学校や地域社会の一員として認められる場をつくり、生徒同士の結びつきを深め、自治的活動を活性化させることが問題行動の減少につながると考えた。そのため、生徒会活動やボランティア活動等の、生徒の自治的活動や主体的な活動の推進を行った。(今年度3年目)

身に付けさせたい資質・能力

自分が学校や地域社会の一員として認められる

(充実感 達成感)

生徒同士の結びつきを深める

} 自己肯定感の向上 (生徒の自主的、主体的な活動)

取組の具体的内容 『キーワード 無理なく』

平成27年度の取組として、生徒会と連携し不十分な掃除から見直した。縦割りの掃除班をつくり、3年生執行部と有志を中心に掃除リーダーが掃除を運営する形を実行した。(無言清掃の取組)

平成28年度には、学期前の掃除リーダーの育成、掃除分担の見直し、配置教職員との連携等、変更を加え、並行して生徒会活動の一環としてのボランティア活動の充実を意識させ、放課後15分間の自由参加のボランティア活動を計画し実行している。また、リーダーの育成という観点から、生徒会執行部が独自の行事として全校で参加できる『全校駅伝』を企画し運営した。

平成29年度には、自主的に時間を管理し、行動することを目標に、ノーチャイムを実施し生徒は時計を見て行動することを行っている。また、ボランティア活動の推進という観点から、今まで1年生の授業で行っていた「八次地区連合自治会女性部との花植え作業」を生徒会中心のボランティア活動とし、年2回放課後に全校生徒で花植え作業を行った。

取組の課題・創意工夫 『キーワード 一歩ずつ』

今年度の取組は、一昨年度、昨年度の取組に修正を加える方向で行っている。生徒会リーダーだけでなく、教職員との連携を行うことで、生徒が教職員と共に目的を共有し、生徒が生徒を指導する負担感を軽減し、生徒間のトラブルを減少させる方向で行っている。掃除の質が以前よりもよくなっている。また、『全校駅伝』は生徒会執行部中心で2回目を企画運営することができた。

今年度より実施したノーチャイムは、教職員から生徒へという形ではなく、生徒会が考え提案する形として実施した。生徒や教職員自身の意識を統一するために、研修を全体で行い、教職員の意識改革を行った。現在はスムーズに時計を見て行動することができている。また、「地域女性会との花植えボランティア」では、八次地区連合自治会女性部の協力も頂き毎回全学年で約150名の参加で行うことができている。



取組の成果（効果）『キーワード 充実感 達成感』

自己肯定感の向上のため、充実感 達成感をもたせるために充実させてきたボランティア活動であるが、今年度は八次地区連合自治会女性部の協力も頂き、さらに進化させる取組となった。昨年度までは1年生の総合の授業で行ってきた内容をボランティア化し全校生徒に呼びかけ参加を募った。1グループを約8人に分け、そのグループごとに地域女性会の方に1人ずつついて花植えの指導をしていただき、約10個のプランターを作り上げていく作業を行った。生徒は約150名が参加し、女性部の方と会話し、楽しみながら作業を行った。また、その様子を地元のケーブルTVに取材して頂き、生徒の生き生きした姿を発信することができた。

◆生徒のアンケート結果

- 掃除を時間いっぱい行っている（平成28年6月 88.1%）
（平成29年1月 90%）
（平成30年1月 89.4%）
- 生徒会活動に積極的に取組んでいます（平成28年6月 77.5%）
（平成29年1月 77%）
（平成30年1月 78.8%）



今後の展開『キーワード 憧れ』

今年度の生徒会執行部には定員10名のうち28名が立候補する選挙となった。各立候補者が自分の公約を掲げ選挙で発表することから、立候補者本人の強い意志はもちろんだが、選挙する在校生も自分の1票をどの人に託すかで、非常に意味のある選挙となった。生徒会を中心として自治的活動の活性化に取り組んできた部分からすると、意識の高まりが感じられるものであった。また、立候補者に「どうして立候補したのか」を尋ねると「前の執行部の人がかっこよかったから」等という上級生に対するあこがれや尊敬といった答えが返ってきた。リーダーが自分たちの目標に向かって努力し活動する姿をみて、次の学年が憧れをもつような場面が作れていたことは、改めて、今の方向性が間違っていないことにつながっていると思われる。1つ1つの取組を単年度で終わらせることなく、修正・改善を加えてさらに意識づけを行っていき、意識の高まりが教職員や生徒の負担感を軽減させ、さらに新しい取組へと深化するといった良い流れができています。今後もさらに目的意識をもたせ、自己肯定感の向上につながるよう充実を図る取組を引き続いて行う予定である。



他校へのアドバイス『キーワード教職員との連携と意識向上』

生徒の意識変革の前に、指導する教職員の意識変革が不可欠である。生徒会担当の教職員や各委員会担当の教職員との連携や調整が、生活への指導の徹底や取組の充実につながる。今後も教職員・生徒の目的意識の向上を図り、生徒会への働きかけにより自治的活動の活性化につなげていきたい。

